

# トビタテ！ 教師プロジェクト



文部科学省 初等中等教育局  
国際教育課長 **小幡泰弘さん**

日本人学校や補習授業校に派遣する教師の確保と育成に向けた取り組みについて、文部科学省の小幡泰弘国際教育課長に話を聞いた。

## シニアと若手で教員を補充

— 毎年どれくらいの先生が海外に派遣されているのでしょうか。

約 400 人です。任期は 2 年が基本で、最大 2 年間延長されることもあります。

— どういった研修を受けて赴任するのですか。

赴任前の 1 月に約 1 週間の内定者研修を行っています (内定者研修後、正式に派遣を決定)。心構えや赴任地での健康管理・安全対策、派遣される国や学校別の情報提供などですが、加えて管理職には学校運営のノウハウを学んでもらっています。

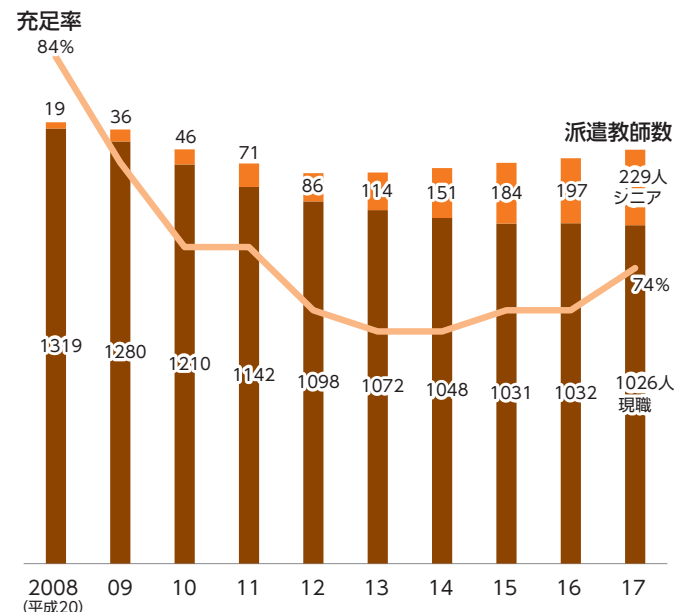
— 政府派遣教師の不足が指摘されています。

海外の派遣教師は約 1300 人です。充足率は 74% で少しずつ上向いてきていますが、さらに引き上げる必要があると思っています。海外で教えてみたいという希望者も増えています。行きたいという意欲のある人に行ってもらうのが一番良いのですが、基本的には各都道府県の教育委員会から推薦を受けた先生が派遣されます。問題は推薦人数が減っていることで、特に 30～40 代の中堅は学校運営の中心となる世代です。引き抜くとなると現場に支障が起こるのを考慮しているのだと思います。

— 何か対策はありますか。

いったん定年退職した教師を派遣する「シニア枠」を 10 年ほど前から設けています。現在、派遣教師の 2 割近くになります (グラフ)。シニアの人たちに頑張っていただくと同時に、「プレ枠」をつくることにしたところ。これは教員免許をもっていて、まだ正規に採用されたことのない若い人たちが対象です。さらに、海外の日本人学校で教えることが教育実習の卒業要件単位として認められるようにすることも検討しています。予算の問題もありますが、とにかくできることからやっていきます。また、量と同時に質の向上にも取り組まなくてはなりません。

在外教育施設 派遣教師の推移



(出所) 文部科学省のデータを元に作成